平成 31 年度校内研修

（１）研究主題

主題：身に付けた知識や、学習の経験を活かしながら、自分の意志・判断をもち学ぶ生徒の育成

副題：見通しのもてる、わかる授業づくりを通して

（２）研究の構想図

研　究　主　題

身に付けた知識や、学習の経験を活かしながら、自分の意志・判断をもち学ぶ生徒の育成

～見通しのもてる、わかる授業づくりを通して～

「身に付けた知識」…学習指導要領に示された、教科等の目標や内容についての知識・技能に関すること。
「学習の経験」…授業や家庭学習での学びからの経験と、実生活の様々な場面での経験等
「見通しのもてる授業」…①「目標」から「まとめ」までの整合性が図られている授業
②１時間の流れを振り返ることができるように、板書が工夫された授業
③生徒自身に見通しをもたせるため、流れが示された授業（LSB の活用等）

研　究　目　標

○　授業で、何が、どこが「わからない」かに気付き、「わかる」にするためにどんな活動が必要なのかを考え、見通しを立てて学習を積み重ねていくことができる生徒を育成する。

○　問題を読み取ることのできる読解力を身に付け、既存の知識や、これまでの経験をもとに適切な答えをつくっていくことのできる生徒を育成する。

研　究　仮　説

○　まとめと結びつく学習課題、学習問題の設定、生徒の思考を促す話し合いの形、まとめ方などを工夫した授業づくりを行うことで、問題意識・課題意識をもちながら学習を進める力を養うことができるだろう。

○　視点を絞った評価問題等から本校生徒の実態を把握し、生徒が抱える課題に応じた指示や発問、板書の工夫等を授業に取り入れていくことで、ゴールを意識し、見通しを立てて学習を重ねていく力を養うことができるだろう。

研　究　内　容

【全体研究会】

○　問題の分析、授業研究についてのおおまかな情報共有と確認

○　授業者の報告（課題に応じた手立ての工夫と授業後の成果・課題）

【教科研究会】

○　問題（みやざき学力、全国学力）を使っての生徒の実態調査（５月、２月）と課題の把握

○　実態に応じた授業づくり。研究授業（各班年２回）。授業後のまとめと変容の分析

国語・社会科研究会	数学科研究会	理科研究会	英語科研究会
加藤・金丸	湯川・永山・勝目	野脇・仁田脇	西山・須崎
中武	佐々木	榎本・吉田	田中
（小野校長）	（小野校長）	（吉永教頭）	（吉永教頭）